

IT部門の自己点検のすすめ

—一次の飛躍に向けた準備として—

不況期には、企業は将来を見越した新しい施策はとりにくい。だからといって何もしていないと、本格的な景気回復期に入った時に競争に遅れるのではないか、という危機感を持つ経営者は少なくない。そこで本稿では、次の飛躍に向けていまだから行っておくべきIT部門の自己点検の取り組みを提案し、そのために必要な観点や点検ポイントを紹介する。

いまだから行うべきIT部門の総点検

景気回復の兆しが見えはじめるなかで、かつてない危機感を持つ経営者が少なくない。本格的に景気が回復した時には事業環境の劇的な変化が予測され、その変化への迅速な対応力と圧倒的なコスト競争力を身に付けておかないと生き残れないという危機感である。

経営が求める変化への対応力とコスト競争力は、そのままIT部門への期待でもある。IT部門に求められているのは、経営者やユーザー部門の危機意識を察知し、将来の本格的な景気回復期に向けた準備を進めることである。そのためには、まずIT部門の現在の姿を正しく把握するための総点検を行う必要がある。

点検のための4つの軸

通常、IT部門の評価は、ガイドラインに基づいて評価軸や点検項目を設定して行われる。よく参照されるのは、経済産業省の「情報システムユーザースキル標準 (UISS)」、英国商務局がまとめたITIL® (ITサービス管理のフレームワーク)、COBIT (情報システムコントロール協会とITガバナンス協会によるITガバナンスのフレームワーク) などである。

これらのガイドラインに基づく評価軸や点検項目は、点検範囲がIT部門の特定の機能に限定されている場合には有用である。また、ガイドラインの詳細な点検項目は、漠然と感じているだけの弱点を明確に抽出する場合には役に立つであろう。しかし、IT部門全体の取り組みを点検する場合には、点検項目が詳細すぎて時間を要するばかりで、全体的な弱点が浮かび上がってこないおそれがある。点検は広い視野から効率的に実施すべきで、「木を見て森を見ず」ということのないようにすることが重要である。

そこで点検軸を4つに絞ることを提案したい。4つの点検軸とは「標準化」「プロジェクト管理」「システム構成」「コスト適正化」である。

点検のポイント

ここでは、4つの点検軸に沿って効率的に自己の弱点を把握するために、どのような項目をどう評価すべきかを簡単に紹介する。

(1) 標準化

システム計画・設計・構築・維持管理に関するプロセスの整備や、設計書・手順書・ガイドラインなどの資料の整備ができているか

野村総合研究所
システムコンサルティング事業本部
ITアーキテクチャーコンサルティング部
上級システムコンサルタント
海老原 弘（えびはらひろし）
専門はシステム全体構成分析、システム維持
管理の改善など



を確認する。こうした標準化の取り組み状況を確認することで、IT部門の仕事の進め方が適切かどうかを判断できる。また、標準化の整備状況はIT部門の技術力を反映するものでもあるので、標準化の点検は自らの技術力を評価するためにも非常に有効な手段となる。

そのほか、ユーザー部門とIT部門の役割分担、標準化を通じた人材育成、ノウハウの共有などに関する仕組みが正しく機能しているかも点検項目となる。

(2) プロジェクト管理

複数プロジェクトのステータス管理や、個々のプロジェクト管理の徹底度合いを確認することにより、IT部門の組織的な枠組みの有効性を点検できる。

スケジュール管理や課題管理については、管理の粒度が粗すぎてプロジェクトの実体把握に問題が起きていないか、ベンダーコントロールに問題はないか、プロジェクトの品質・生産性を事後評価する仕組みが正しく機能しているかなど、十分な確認が必要である。

(3) システム構成

複数システムのシステム構成やプログラム構造・データ構造を全体的に整理し、統一性や複雑性を確認することにより、変化への対応力を点検できる。

システムが利用しているOS（基本ソフト）、ミドルウェア、開発ツールなどの構成要素の統一性や、ユーザー認証や運用管理などの共通基盤の整備状況から、システム構成やプロ

グラム構造・データ構造を簡素化する取り組みを確認することも必要である。

(4) コスト適正化

ITコストの可視化状況や、コスト適正化に向けたPDCAサイクルが機能しているかを確認することにより、コスト効率性やシステムの方向性の検討が適正かどうかを点検できる。

経営やユーザー部門へITコストの必要性和投資効果を正しく説明できるようにそれらが可視化されているか、コスト適正化のための改善施策に実施時期や難易度により優先順位が付けられているか、また改善施策が定期的に検討されているか、ベンチマークの実施によりコストの妥当性を判断しているかなどを確認することも必要である。

当たり前の取り組みを再確認する

さまざまなユーザー企業の問題解決を支援してきた経験から言うと、以上の4つの点検軸に沿った点検作業により、IT部門が抱える主要課題の約8割は抽出できる。それによって弱点を浮き彫りにできれば、システム構成やデータ構造の複雑化、機能追加への対応スピードの鈍化、運用保守の品質低下や効率低下といった課題が何によって生じているかが具体的に見えてくる。

以上の点検ポイントは、さして目新しいものではないと思われるかもしれないが、IT部門が実施すべき当たり前の取り組みを再確認することから始めることが必要であろう。■